

TC 通信

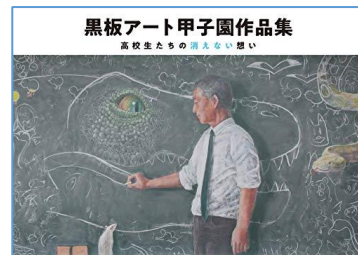
No84 2018年11月号

- ◆ティーンズ世代=10代のための読書情報誌です。(旧YA通信)
- ◆ご紹介する本は特に記載がない限り、図書館3階ティーンズコーナー所蔵です。



ティーンズコーナーに新しく入った本から
ピックアップ。

New!!



『黒板アート甲子園作品集』

日学株式会社/総監督 日東書院本社 720.8/コ/18

「黒板アート甲子園」とは、黒板を作っている会社が主催している「黒板」をキャンバスにしたアート甲子園です。最近では卒業などの節目に、先生や学校が黒板にメッセージやイラストを描いて生徒を送り出すところも増えているようなので、皆さんの中にも、黒板アートに興味を持っている人がいるのではないのでしょうか。

この本に掲載されている作品は、すべて高校生たちの手によるもので、大人顔負けのリアリティーを感じるものからアイデア溢れるものまで、作品は様々です。チョークでここまで描けるのかと本当に感動してしまいます。

美術の巨匠と呼ばれる人たちの作品はもちろん素晴らしいですが、皆さんと同じ高校生たちの情熱の込められた作品を見て、芸術を感じるのもいいですね！

名作 たからばこ



『ハックルベリー・フィンの冒険 上・下』

マーク=トウェイン/作 千葉 茂樹/訳
岩波書店 93/イ7/17-1、2 3階児童

南北戦争以前の南部アメリカが舞台のこの本は、アメリカ文学の源ともいわれ、世界各国で愛され続けています。『トムソーヤの冒険』の続編で、浮浪児“ハック”と黒人奴隷“ジム”がミシシッピ川をいかだで下る冒険物語です。

ハックが語る口語体で書かれ、紹介した岩波少年文庫の訳は原文にある nigger や方言にこだわっていないためか、ワクワク・ドキドキの大冒険小説として楽しむことができます。

1885年出版当時、下品な主題・粗野で無教養な言葉遣いなどを理由に一部図書館で禁書に指定されました。20世紀以降も閲覧制限・禁書処分をうけるなど論争の的になっていますが…。

何年か後この作品を再読してください。胸が熱くなる場面が今とは違っているはず。そして少年の頃の冒険心を目覚めさせてくれることでしょう！

テーマ
文学賞

文学賞といえば、「芥川賞」や「直木賞」が有名ですね。この2つ以外にも、出版社の名前がついたものから「本のタイトルの面白さ」だけで順位をつけるユニークな賞まで、さまざまなジャンルの文学賞が存在します。本を選ぶきっかけの一つとして、受賞歴のある本を見てみてはいかがでしょうか？



『13階段』 高野 和明/著 講談社 F/タカ/14 3階文庫

——死刑執行の迫る、記憶を失った死刑囚の冤罪を晴らすために、刑務官と傷害致死の前科を持つ青年が調査を進める。期間は3ヶ月、成功報酬は1000万円——

この作品のタイトルは死刑が決定されてから、執行されるまでの過程が詳細に書かれており、死刑に近づいていく13の過程を指しています。

加害者、被害者、被害者遺族、そして死刑執行者のそれぞれの心理描写や情景が目につかび、思わず背筋が冷たくなります。重いテーマを扱った作品ですが、緊張感の漂う展開が気になり、ページをめくる手が止まらなくなります。ラストは最後まで予想がつかません！

死刑制度とは一体、誰のためにあるのか、復讐の連鎖は断ち切れないのか、贖罪とは何かを考えさせられます。第47回 江戸川乱歩賞受賞作品。

『チャーネ』

ホーコン＝ウーヴレオース/作 オイヴィント＝トールシェテル/絵 菱木 晃子/訳

ゴ布林書房 94/コフ/18 3階児童

ノルウェー児童書新人作家賞、北欧理事会児童青少年文学賞、オランダ・銀の石筆賞

主人公ルーネは半年前に引っ越してきた男の子。年上3人組のいじめっ子にうんざり、そのうえ大好きなおじいちゃんが亡くなり、忙しいパパは彼の悩みに気づきません。ルーネは仲間といじめっ子たちを懲らしめようと計画…。さてさて、仕返しは成功するのでしょうか？

いじめや仕返しは世界中どこでも日常茶飯事のようなですね。また子どもを尊重するあまり子どもの心にふみ込めない北欧の親の姿が新鮮です。あなたの周りの大人たちなら…と想像しながら読むのも面白いかもしれません。



『ビオレタ』 寺地 はるな/著 ポプラ社 F/テラ/15 4階一般

第4回ポプラ社小説新人賞受賞作品です。

婚約者に突然ふられ、道端で泣いていた妙（たえ）。雑貨屋「ビオレタ」の店主・堇に拾われ、「ビオレタ」で働くことになるのですが、そこは「棺桶」なる美しい箱を売る、ちょっと変わったお店。「棺桶」を求めて「ビオレタ」を訪れる人や、店主の堇さんなど周りの人との交流の中で、妙は自分を見つめなおしていきます。

全体的に優しい雰囲気のお話で、何事にも自信を持てなかった主人公が、「ビオレタ」での出会いを通して成長していく姿に共感できる素敵な本です。



『ツナグ』 辻村 深月/著 新潮社 F/ツシ/10 4階一般

2018年本屋大賞を受賞した『かがみの孤城』の作者、辻村深月さんの作品で、第32回吉川英治文学新人賞受賞作です。

「死者」と書いてくツナグ、その人の役割は、死んだ人と生きた人間を会わせる窓口として一度だけ再会の仲立ちをする事。しかし、生者は死者と、死者もまた生者と一生に一度しか会えないのです。

タイトルが「ツナグ」なので文字通り登場人物と死者を繋ぐという物語のように思えますが、切実に死者と会いたいと願う人たちは、亡くなった人ががんじがらめにされている理由があり、それを切り離すことによって前に進ませてあげるといふ物語ともいえます。

以前、映画化もされたのでこの作品の名前だけは知っている人も多いかもしれません。

辻村深月入門に最適の1冊ともいわれている作品です。



ボランティアさんのオススメ本 (アリスの会)



『ある子ども』(ギヴァー4部作 最終巻)

ロイス=ローリー/著 島津 やよい/訳 新評論 93/シン/18 3階児童

1995年『ザ・ギヴァー 記憶を伝える者』から「ギヴァー4部作」として刊行されてきたシリーズ最終作が20年越しで本年出版されました。

～【出産母】としての職務を遂行するクレアは14歳でゲイブを産む。産む為だけの任務を果たしたクレアが我が子への愛情を追い求めた結果、【コミュニティ】を去ることにより物語は過去3作へと繋がっていく～

【記憶】の検証により最善として成立つ合理的な【コミュニティ】。その【コミュニティ】が【愛】を否定することに衝撃をうけます。あたりまえの様な愛情、友情、感情というものを失くして私たちの存在意義はあるのか？

シリーズ全作読破！ぜったいお勧めです！

図書館員Mの本棚

「図書館戦争」という小説をご存知でしょうか？この世界の図書館には、司書の仕事に加えて、自衛隊のように銃をもって「本」を守る、「図書隊」という組織が存在します。図書館が好きだった&小学校の頃は友達とエアガンで遊ぶのにはまっていた私にとって、「図書館」と「自衛隊」が融合したこの小説はすぐにお気に入りになりました。

そんな「図書館戦争」で大ブレイクした作家、有川浩の本のなかでも、特におすすめの4冊を紹介します！



『図書館戦争』

有川 浩/著
角川書店(角川文庫)
F/アリ/13 3階文庫



『植物図鑑』

有川 浩/著
幻冬舎
F/アリ/18 3階文庫



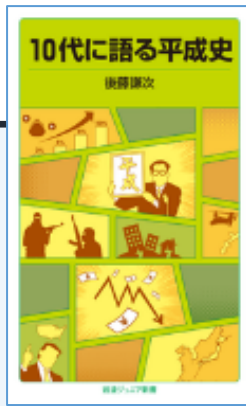
『旅猫レポート』

有川 浩/著
文芸春秋
F/アリ/12 4階一般



『コロボックル絵物語』

有川 浩/作 村上 勉/絵
講談社
F/コウ/14 3階児童



TC担当イチオシ!

『10代に語る平成史』

後藤 謙次/著 岩波書店 21/シ/18

どんな本?

2019年4月に終わりを迎える「平成」。2019年5月1日をもって新しい時代にバトンタッチされます。

消費税導入、バブル経済の終焉、多くの自然災害…。波乱に満ちた平成の歴史をわかりやすく解説した本です。

ここがオススメ!

皆さんは、生まれ育った平成はどんな時代だったのか、どのくらい知っていますか?

政治ジャーナリストとして多くの歴史の現場を目撃し、テレビでキャスターとして活躍する著者が、この本を読んだ後、若い皆さんが平成の30年間に立体的に描けるよう書かれた本です。

テーマ別にわかりやすく書かれており、新しい時代を生きるために必読の現代史入門書です。

ティーンズコーナーとは??

中高生（ティーンズ）世代に向けたさまざまなジャンルの本を集めたコーナー。図書館3階にあります。大きな看板が目印！

児童書よりも文字数が多くむずかしい本へのステップアップをはじめ、悩み解決のヒントになる本・知識を深める本・趣味を広げる本などをたくさん用意しています。

「〇〇について調べたい！」
「△△の本はどこ？」など、
本に関する相談や探し物は
職員に気軽に聞いてみてね。



発行：春日井市図書館

春日井市鳥居松町5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

※表紙画像の掲載にあたっては出版社から許諾を得ています。